

都市再生整備計画(第1回変更)

そね
曾根地区

京都府 京丹波町
きょうとふ きょうたんばちょう

平成24年11月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	京都府	市町村名	京丹波町	地区名	曾根地区	面積	245 ha
計画期間	平成 24	平成 27	年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 27 年度		

目標

大目標 京都縦貫自動車道丹波綾部道路の開通に合わせた本町の特性を活かした魅力的なまちづくり

目標1 丹波自然運動公園等の周辺環境を活かし、自然や歴史、地域の人々とのふれあいを楽しむことが出来る交流拠点としての機能を発揮する。

目標2 京丹波町各地の魅力を発信することで、町内への周遊や滞在を促し、地域活性化を図る。

目標3 基幹産業である農業振興による地域活性化を図る。

目標4 高速道路機能を活かした広域防災活動拠点としての機能を発揮する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・京丹波町は、京都府のほぼ中央部にあたる丹波高原の由良川水系上流部に位置し、町域面積303km²の農山村で、このうち約83%を森林が占め、この間を縫って耕地が広り、集落が点在している。古くから、都と丹後・山陰地方を結ぶ交通の要衝として栄え、現在も京都縦貫自動車道(京都丹波道路)やJR山陰本線をはじめ、国道9号、27号、173号などが交わり、京阪神など大都市圏へ1時間台で移動できるなど、比較的交通環境に恵まれた地域である。
- ・本地区的周辺には、丹波ICや国道9号、27号が通り、周辺に役場本庁、中央公民館、ショッピングセンター等町の中心市街地を形成している。
- ・京都縦貫自動車道丹波綾部道路は、平成26年度の供用予定であり、これにより国道9号などの一般道通行車の大部分が自動車専用道へ転化され、地域発展への影響が懸念される。そこで丹波PA(仮称)の整備に併せて、休憩ニーズと地域振興ニーズを結びつけた地域活性化の中心となる振興拠点施設の整備を計画している。
- ・本施設では、「交流拠点」、「情報発信拠点」、「おいしさの拠点」という3つの役割を位置付けて、京丹波町の基幹産業である農業振興を基軸として商業・観光・雇用促進等に向け事業展開をしていく。
- ・また、豊かな自然や丹波自然運動公園などの地域資源を活用した都市住民との交流により本地区を拠点とした町の活性化を図っていく。
- ・合わせて、大規模災害発生時には物資輸送の大動脈となる京都縦貫自動車道と直結した施設であるメリットから、高速道路機能を活かした広域防災活動拠点と位置付け、本町への物資輸送中継基地として利用できる施設整備を行う。

課題

- ・京丹波町の農業を取り巻く現状・課題は、農業就業者の減少や高齢化など担い手不足が進み農業を取り巻く状況は厳しさを増している。消費者ニーズに対応した安全安心な生産体制の構築、地域ブランド化や観光情報等発信拠点としての整備が不可欠である。
- ・一般道を利用して広域交通が自動車道へ転化し通過することで、地域活力の沈滞が懸念される。

将来ビジョン(中長期)

京丹波町の玄関口となる丹波PA(仮称)と一体的な地域振興拠点の形成

- ・京丹波町総合計画では『玄関口エリアの形成』として、道路を利用して来訪する人々に対して、京阪神、府北部、山陰方面との道路交通の結節点という好条件を生かし、京都縦貫自動車道IC、各道の駅などを道路交通による丹波高原の玄関口として位置づけ、産業・交流活動等を推進を図るエリアとして位置付けている。
- ・京丹波町都市計画マスタープランにおいては、『(仮称)丹波パーキング活用検討エリア』として、道路利用者の休憩機能のみならず、広域圏へのPR拠点、高速バスの乗降拠点、高速道路機能を活かした広域防災活動拠点など地域振興に寄与する機能を有する地区として位置付けている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
					基 準 年 度	目 標 年 度
1 町の交流人口	千人/年	京丹波町観光施設における年間交流人口	本施設を拠点とした観光のまちづくりを進め、年間交流人口の20~25万人増を目指す。	1,720	平成23年度	1,970 平成27年度
2 観光特産品数	品	町の特産品数	新たな町の特産品を開発、販売することで地場産業の活性化を図る。	12	平成23年度	14 平成27年度
3 イベントの開催回数	回/年	地域イベントの開催回数	地域コミュニティの促進を図り、地域の活性化を図る。	4	平成23年度	6 平成27年度
4 大規模災害時の救援物資輸送	人	救援物資中継基地の対象人数	大規模災害発生に備えて、地域の防災機能を向上させる。	0	平成23年度	16,500 平成27年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針1(丹波自然運動公園等の周辺環境を活かし、自然や歴史、地域の人々とのふれあいを楽しむことが出来る交流拠点としての機能を発揮) ・当施設から周辺の豊かな自然・田園風景への眺望の確保や、周辺の里山景観と調和した美しい施設整備 ・子どもから老人までが参加でき、来訪者に地域のおもてなしを感じていただく交流イベントを開催	地域生活基盤整備事業(交流広場兼防災拠点、緑地) 高質空間形成施設(修景・緑化施設、照明、モニュメント等) 地域創造支援事業(案内標識、交流イベント、古墳公園散策路)
整備方針2(京丹波町各地の魅力を発信することで、町内への周遊や滞在を促進) ・町内の既存の道の駅や商店のおすすめ情報や、朝市等のイベント情報の提供 ・当拠点を起点として、実際に周辺の観光施設やまちに立ち寄り、京丹波の魅力を体感していただくための周遊サービスを提供	地域生活基盤整備事業(情報板) 高次都市施設(観光交流センター)
整備方針3(基幹産業である農業振興による地域活性化) ・地元物産である農作物や特産物により、来訪者に京都丹波ブランドの食の魅力を提供できる特産物紹介・即売施設を整備する。 ・京丹波で採れる野菜を使った特色ある飲食・物販施設を整備する。 ・新たな京丹波ブランドとなりうる特産物を開発・製造し、地域の生産活動の活性化及び特産物の需要拡大を図る。	高次都市施設(観光交流センター、まちおこしセンター) 地域創造支援事業(地域振興施設:飲食・物販施設) 地域創造支援事業(地域特産品開発)
整備方針4(高速道路機能を活かした広域防災活動拠点としての機能を発揮) ・大規模災害発生時における高速道路機能を活かした広域防災活動拠点と位置付け、本町への物資輸送中継基地として利用できる施設整備	地域生活基盤整備事業(交流広場兼防災拠点)

その他

○京都縦貫自動車道 一般国道478号 丹波綾部道路

京都縦貫自動車道は南北に長い京都府の北部地域と南部地域を結ぶ全長約100kmの高規格幹線道路であり、人口の過疎化が進み産業・経済の状況において南部地域に比べて大きく立ち遅れている京都府北部地域の経済の活性化や京都府北部地域と南部地域の連携強化を図り、府域の一体的の発展に資する道路である。

丹波綾部道路は、京都縦貫自動車道の一部区間を構成し、京都府北部及び中部地域の活性化を図るとともに、物流の効率化、さらには一般国道27号に対するリダンダンシーの確保等を目的に計画された道路である。

【計画の概要】

- ・起終点
自)京都府綾部市七百石町
至)京都府船井郡京丹波町市森
- ・計画延長 L=29.2km
- ・幅員 W=22.0m(標準)
- ・構造規格 第1種3級
- ・設計速度 80km/h
- ・車線数 4車線
- ・全体事業費 約2,100億円



交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	1,600	交付限度額	640.0	国費率	0.4
---------	-------	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

基幹事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費		交付対象事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分		
道路														
公園														
古都及び緑地保全事業														
河川														
下水道	—			—										
駐車場有効利用システム	—			—										
地域生活基盤施設	交流広場兼防災拠点、緑地、情報板	京丹波町	直	15,621m ²	H24	H26	H24	H26	622	622	622	622		
高質空間形成施設	修景・緑化施設、照明、モニュメント等	京丹波町	直	5,158m ²	H24	H26	H24	H26	115	115	115	115		
高次都市施設	観光交流センター、まちおこしセンター	京丹波町	直	1,632m ²	H24	H26	H24	H26	594	594	594	594		
既存建造物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
パリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地 総合整備事業	拠点開発型 沿道等整備型 密集住宅市街地整備型 耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										1,331	1,331	1,331	0	1,331...▲

0 1,331 ...A

古詩

提案事掌

合計(A+B) 1600

(参考) 関連事業

都市再生整備計画の区域

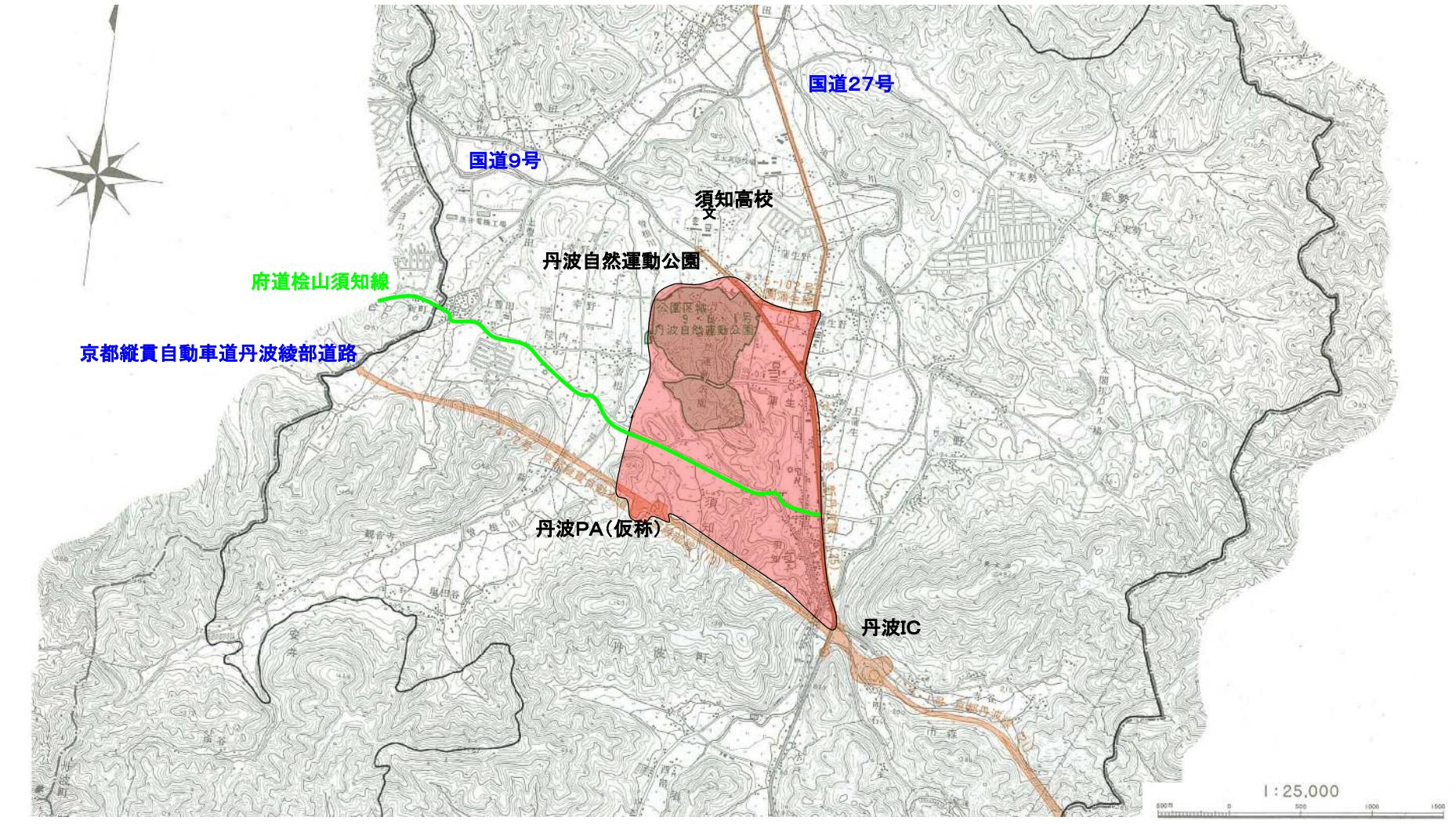
曾根地区(京都府京丹波町)

面積

245 ha

区域 京丹波町曾根、須知、蒲生、豊田、院内の一部

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



曾根地区(京都府京丹波町) 整備方針概要図

目標	大目標 京都縦貫自動車道丹波綾部道路の開通に合わせた本町の特性を活かした魅力的なまちづくり	代表的な指標	京丹波町の年間交流人口	(人／年)	1,720千人	(H23年度)	→	1,970千人	(H27年度)
	目標1 丹波自然運動公園等の周辺環境を活かし、自然や歴史、地域の人々とのふれあいを楽しむことが出来る 交流拠点としての機能を発揮する。		京丹波町の特産品数	(品)	12	(H23年度)	→	14	(H27年度)
	目標2 京丹波町各地の魅力を発信することで、町内への周遊や滞在を促し、地域活性化を図る。		地域イベントの開催回数	(回／年)	4	(H23年度)	→	6	(H27年度)
	目標3 基幹産業である農業振興による地域活性化を図る。		救援物資中継基地の対象人数	(人)	0	(H23年度)	→	16,500	(H27年度)
	目標4 高速道路機能を活かした広域防災活動拠点としての機能を発揮する。								

